

平成 28 年度原子力防災訓練の結果について

1 原子力防災訓練実施結果検討会（H29.2.16）で出された主な意見

＜訓練に関する意見＞

(1) 実施時期等

- ・ 平日開催か，土日開催か，訓練の目的を踏まえた検討が必要
(住民参加重視→土日，医療機関及び社会福祉施設等重視→平日)
- ・ 住民説明や，医療機関等への説明が必要であるため，訓練日を早期に公表してほしい。

(2) 訓練想定等

- ・ 過去 2 年間は警戒事態中からの訓練であり，PAZ の避難に係る初動対応訓練が実施されていない。初動の連絡体制等についても確認する必要がある，発災時から訓練を実施してはどうか。
- ・ PAZ の避難から，UPZ の避難まで実施するため，訓練が圧縮され過ぎており，実動訓練時間が不足していた。訓練想定に見合った訓練時間の配分を検討してほしい。
- ・ 住民避難と併せて児童生徒等の引き渡し訓練の流れの検証も行うべき。
- ・ 津波による浸水を想定し，高台への避難訓練をとり入れることはできないか。

(3) 現地災害対策本部

- ・ 自衛隊等の実動組織や県バス協会等の関係機関への要請手続の流れについて整理が必要

(4) オフサイトセンター運営

- ・ オフサイトセンター内において，各機能班，県現地本部各チーム及び市町現地本部間の共有すべき情報の流れが明確でなく，連携がうまくいかない部分があった。
- ・ 県現地本部チーム内において，複数の事案が同時に発生した時など，情報の共有化ができなかった部分があった。

(5) 避難退域時検査・原子力災害医療・安定ヨウ素剤配布

- ・ 住民の汚染箇所について、今回は手の甲が多かったので、異なった部位を加えてはどうか。
- ・ 車いす等で避難退域時検査場所に来られる住民も想定し、検査・除染作業の習熟を図ることが重要ではないか。
- ・ 住民検査（汚染検査）と安定ヨウ素剤配布の所管が異なり、指揮命令系統が異なっていたため、一本化を図れないか。
- ・ 今回、初めて済生会川内病院と長崎大学が連携した被ばく傷病者対応訓練を実施した。今後、このような機会を通じて、日頃から連携体制を構築することが重要ではないか。

(6) 緊急時モニタリング

- ・ モニタリングに従事する職員は毎年変化するため、国の訓練などを活用し、要員の更なる資質向上を図っていくことが重要である。

(7) 受入対応

- ・ 避難所における避難元市町、避難先市町及び避難施設の役割分担が不明確。今後、連携を深めるような取組を検討してほしい。
- ・ 避難所への避難に係る進捗状況の連絡が不十分だったため、連絡体制の明確化が必要
- ・ 避難所設置までの指揮命令系統が不十分だったため、県、避難元市町、避難先市町及び避難所間の連絡体制の再確認が必要
- ・ 避難の受入において、他の市町からの受入には相当混乱も予想されることから、避難元市町の職員が先発として受入準備等を行ってほしい。
- ・ 避難所のエレベーターが使用できない場合に、高齢者や足が不自由な方への対応を検討することが必要
- ・ 要員の避難所運営方法等の習熟に重きをおいた訓練も重要ではないか。
- ・ 避難施設等調整システムについて、利用手順の研修などを実施してほしい。

＜避難計画に関する意見＞

(1) オフサイトセンター運営

- ・ 国が中心となる各機能班と、県が中心となる県現地本部各チームにおける役割を明確にしてほしい。
- ・ 県現地本部各チームの業務内容を明確にしてほしい。
(避難所の調整, 備蓄物資の搬送など)
- ・ 複合災害時の災害対策本部の設置等も考慮し, オフサイトセンター内の現地本部のあり方について検討が必要ではないか。

(2) 避難

- ・ 発災時におけるPAZ内の残留者捜索にあたっては, 実動組織(自衛隊)等において, 予め担任区域を定める等, 地域割りしてはどうか。
- ・ 滄浪地区, 寄田地区は高齢化が進み, 鹿児島市内までの自家用車避難が困難であるとの声があるため, 地区限定でバス避難への変更を検討してほしい。
- ・ バスでの長距離避難を考慮して, 避難経路上におけるトイレの位置を確認しておくことはできないか。
- ・ 避難経路として南九州西回り自動車道などの有料区間を指定することができるよう, 関係機関と協議してほしい。

(3) 避難退域時検査・原子力災害医療・安定ヨウ素剤配布

- ・ 実際の原子力災害発生時の避難退域時検査等を実施する候補地が明らかにされていないため, 問題点の案出ができない他, 対処計画が具体化できない。
- ・ 避難退域時検査場所で安定ヨウ素剤を配布することで迅速性が損なわれることが懸念される。配布場所について検討してほしい。

(4) 受入体制

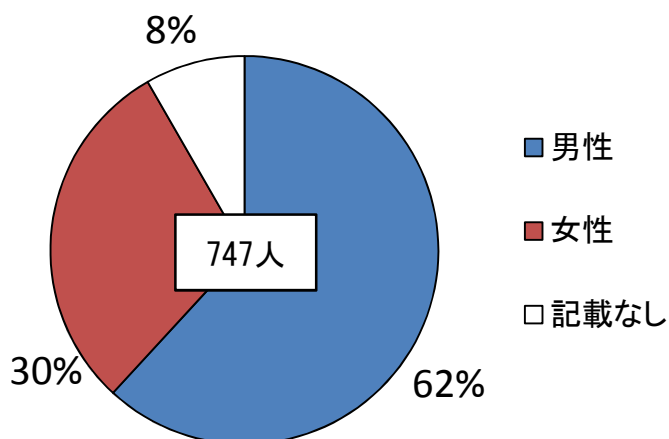
- ・ PAZ内住民の避難所となっている宝山ホールは, 外来者用の駐車場が設けられていないので, 駐車場の確保に関することを, 予め避難計画に定めてほしい。

2 原子力防災訓練 住民アンケート結果

○ アンケート回答者数：747人

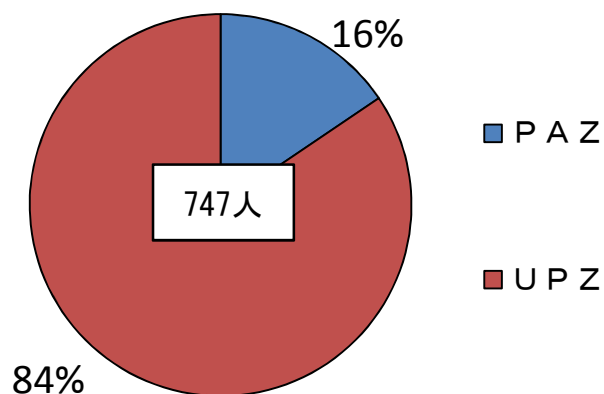
性別

男女比



PAZ及びUPZ参加者の割合

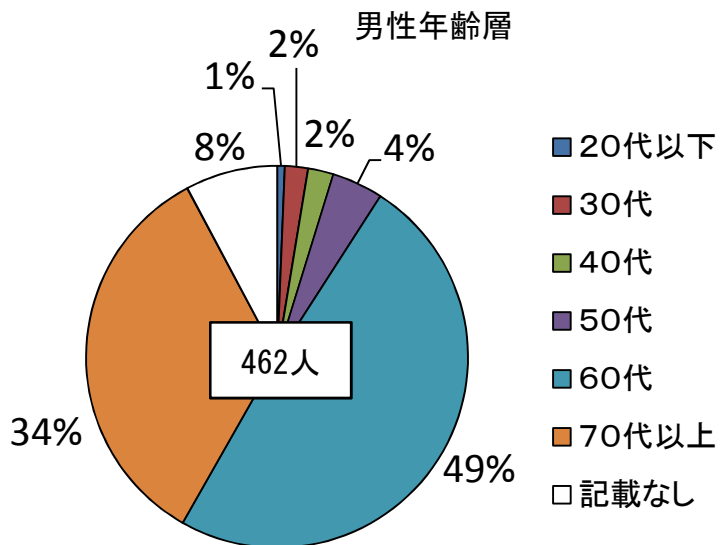
Q4：PAZ(0～5km)とUPZ(5～30km)のどちらにお住まいですか？



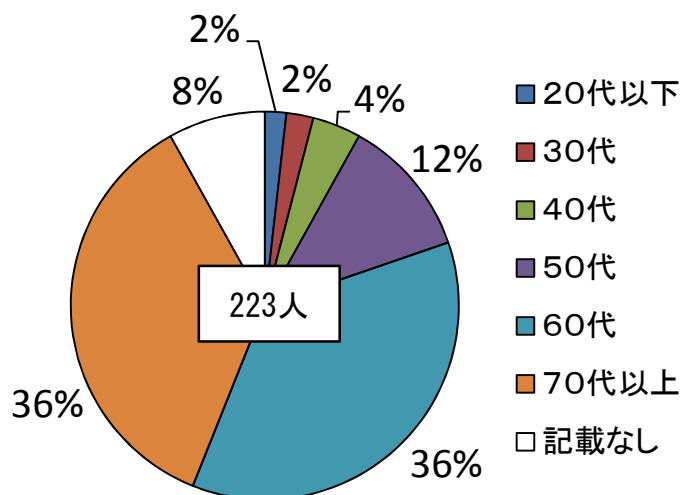
年齢層

<男性・女性の年齢層：計685人>

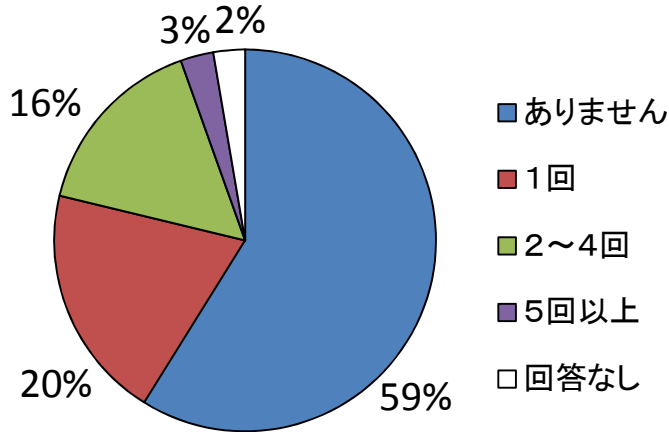
男性年齢層



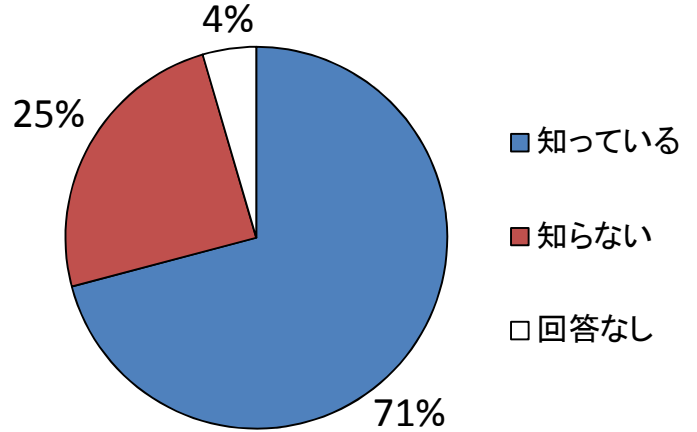
女性年齢層



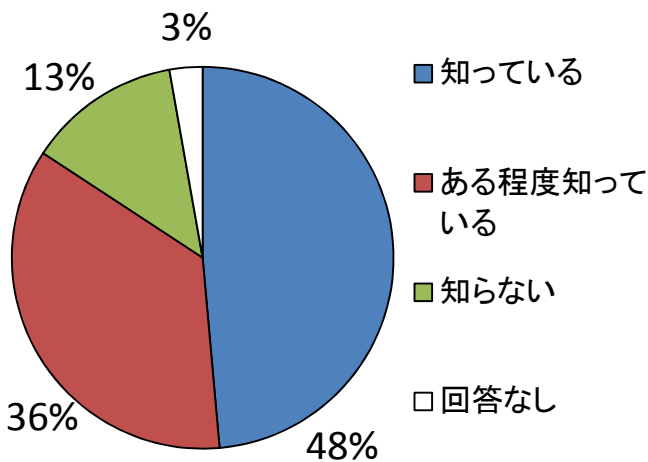
Q 1 : これまでに原子力防災訓練に参加したことがありますか？



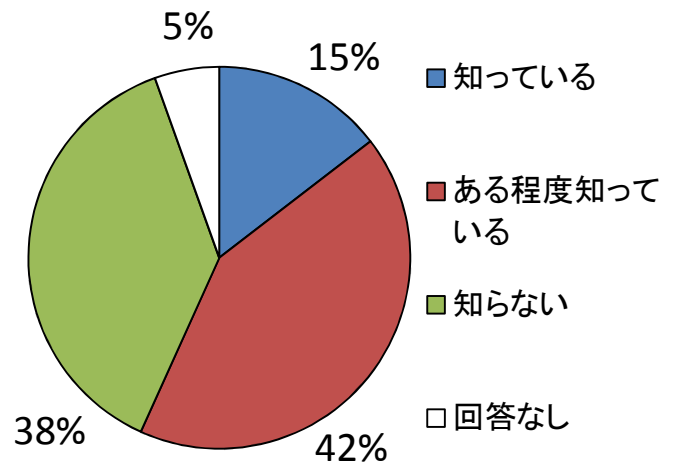
Q 2 : あなたのお住まいの地域の避難計画を知っていますか？



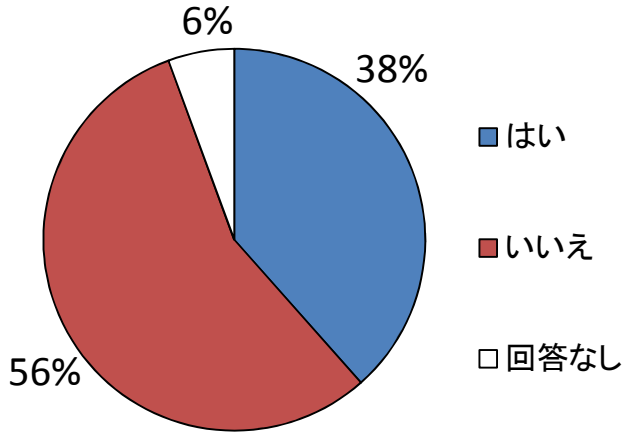
Q 3 : 原子力災害時、あなたの避難方法(避難所・避難先・避難ルート等)を知っていますか？



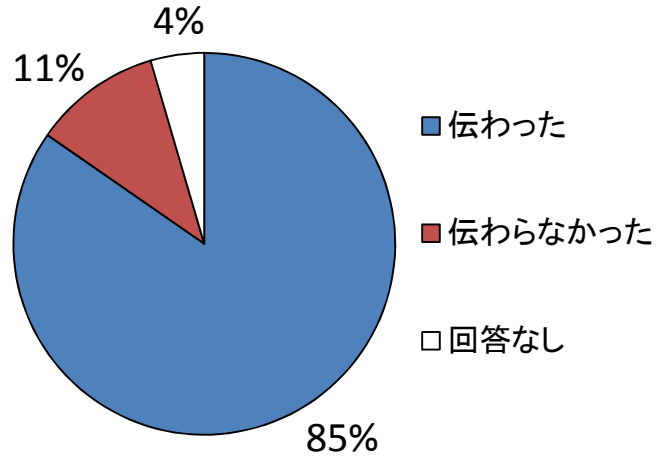
Q 5 : あなたの住まいの地域では、いつ、どのように防護措置を行うか知っていますか？



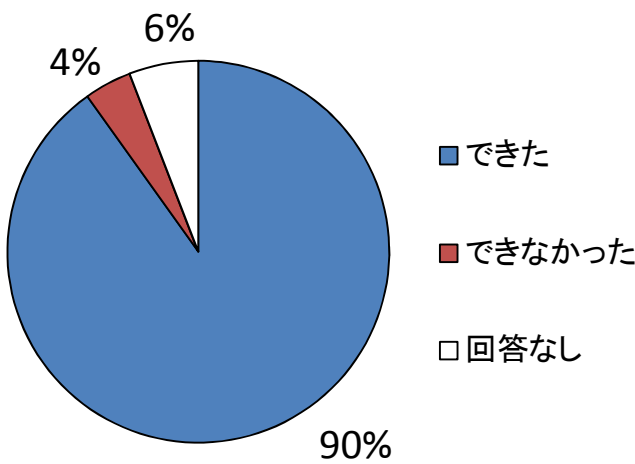
Q 6 : お住まいの地域の最寄りに設置された
モニタリングポストのことを知っていますか？



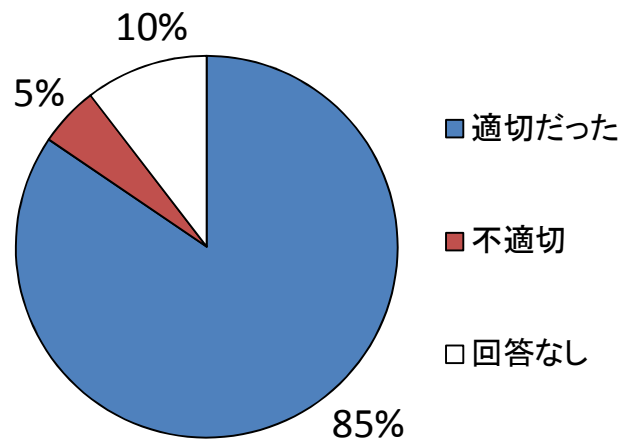
Q 7 : 住民広報(発電所の情報, 避難指示など)は伝わりましたか？



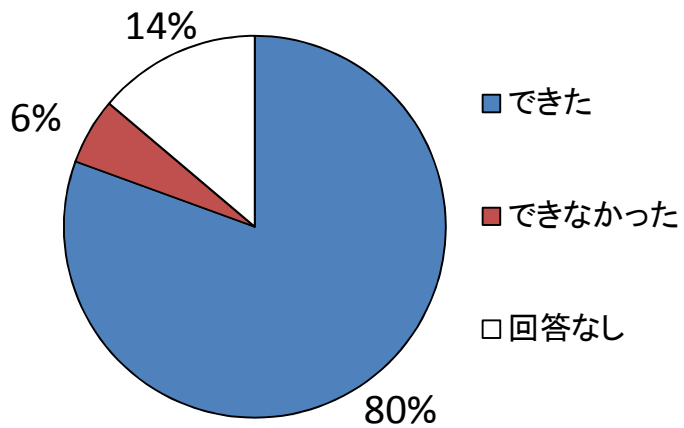
Q 8 : 避難は、スムーズにできましたか？



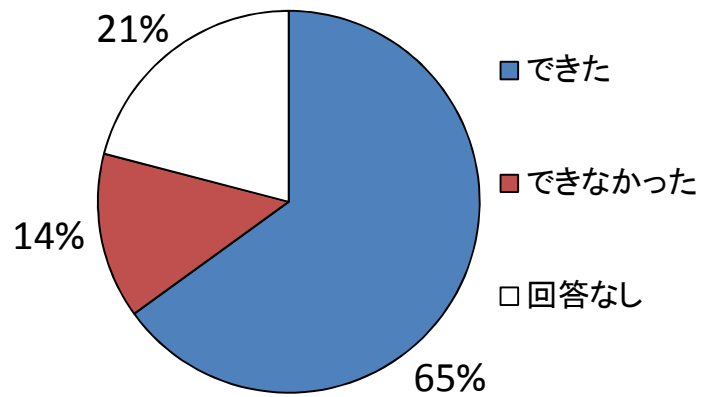
Q 9 : 避難所の運営は適切でしたか？
(職員の対応含む)



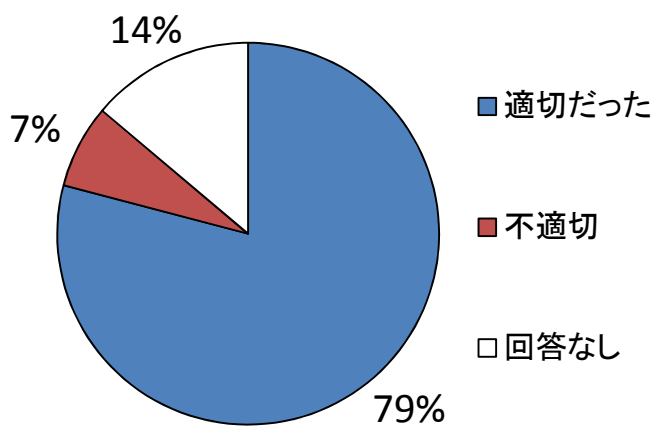
Q 1 0 : 屋内退避はできましたか？



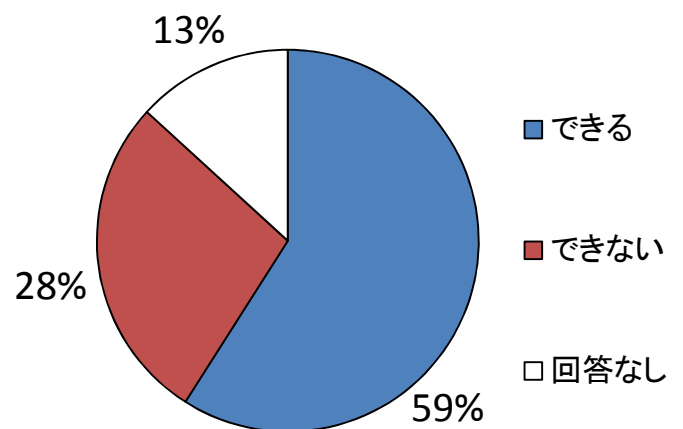
Q 1 1 : 熊本地震による家屋倒壊等を想定した、避難所等での屋内退避はできましたか？



Q 1 2 : 避難退域時検査の運営は適切でしたか？（職員の対応含む）



Q 1 3 : 今回の訓練を体験して避難できると感じましたか？



主な自由意見

- 1 今後の訓練について
 - ・ 訓練には広く参加してほしい。特に若い人に参加してほしい。
 - ・ 災害対策本部の状況や、訓練の状況を住民にも随時知らせてほしい。
- 2 広報・情報伝達
 - ・ 防災無線の連絡をもう少しこまめに行ってほしい。避難経路なども広報を。
 - ・ 高齢者にスムーズに情報が伝わるか心配。
- 3 避難方法、避難経路等
 - ・ 実災害時に道路状況が心配。計画どおりに避難できるのか。
 - ・ 家から避難所まで自家用車で行けるか心配。
 - ・ 避難経路が最短ではない。高速道路の活用も検討してほしい。
- 4 避難場所
 - ・ 避難所の受入体制がしっかりできていて良かった。
 - ・ 避難所のトイレの洋式化などの整備を助成すべき。
 - ・ 避難所での訓練（避難所運営、講習など）をしてほしかった。
- 5 避難退域時検査・原子力災害医療
 - ・ 原発事故が発生してから、検査のための設備を準備できるのか。
 - ・ 避難退域時検査場所を予め決めておいた方が良かった。
- 6 安定ヨウ素剤
 - ・ 安定ヨウ素剤の副作用が心配。
 - ・ 安定ヨウ素剤の服用の可否は、みんな分からないと思う。事前の周知が必要。
- 7 その他
 - ・ 日頃から1人1人の意識づけが必要。自分のことだと意識づけできるような情報発信への工夫が必要。
 - ・ 訓練ではスムーズに避難できたが、実災害時に同じようにできるか。
 - ・ 県、市、避難先の連携を密にしてほしい。
 - ・ 自家用車での避難の際、ガソリンや放置自動車の対応をどうするか。
 - ・ 訓練に参加したことで、分からないことがよく分かった。次回も参加したい。